



2026年2月20日

各 位

会社名 クラシル株式会社
代表者名 代表取締役社長 堀江裕介
(コード番号:299A 東証グロース市場)
問合わせ先 取締役 CFO 戸田翔太
TEL. 03-6420-3878

投資家の皆様より多く寄せられた質問と回答 (2026年2月)

日頃より当社にご興味ご関心をお持ちいただきありがとうございます。直近で投資家の皆様からいただいた主な質問とその回答について下記の通り開示いたします。

本開示は、投資家様への情報発信強化とフェア・ディスクロージャーを目的としております。回答内容については、時点のずれによって、多少の齟齬が生じる可能性がある点、ご了承ください。

また、質問と回答内容については「QA Station」でも確認いただくことが可能です。

■当社QA Stationへのリンク

<https://www.qastation.jp/dely>

Q1. 第3四半期決算の評価を事業領域別に教えて欲しい。

第3四半期は、売上高は概ね会社計画通りであり、営業利益についても、その他事業における粗利率の悪化等があったものの、オペレーティングレバレッジが効いたことで概ね計画通りとなりました。

売上高について、各領域別にご説明しますと以下のとおりです。

- メディア:社内計画を上回りました。PVのベースラインが第2四半期の好調を受け、上昇したことが要因です。
- 購買:レシチャレにおいては案件獲得が順調に進み、しっかり成長できたと考えていますが、オンライン(アフィリエイト)は需要期であることを踏まえると第3四半期において想定を下回る結果となりました。
- その他:アクティブライバー数は前四半期と同水準での着地となったものの、概ね計画通りの推移となりました。

営業利益については、セールスマックスの変化やその他事業における原価率の変動によって粗利率は前四半期から1.2ポイント低下したものの、人件費などにおいてオペレーティングレバレッジによる効率化が実現できたことにより、概ね計画通りの進捗となりました。

Q2. 生成AIの普及により、貴社メディアへのユーザー流入に悪影響はあるか？

足元で大きな影響は出でていない、と認識しています。

当社運営のメディアにおけるコンテンツは、情緒的な価値を求めるライフスタイルコンテンツを中心に提供しており、現状においてはAIで代替できない部分が多くあると考えております。特に当社料理動画プラットフォーム「クラシル」においては、安心して、分かりやすく、簡単に、おいしく作れる動画コンテンツを中心に提供しておりますが、AIが作るレシピと比較すると現段階では当社コンテンツに優位性があると考えております。

Q3. メディア事業においてAI活用の効果が出たとのことだが、その効果は「PV」か「コスト」か？

PVにおいても記事制作の効率化においてAIが寄与していますが、足元で大きく効果がでているのは「コスト」となります。

特に記事監査のAI化などの元々人が行なっていたオペレーションをAIに置き換えることなどで、コスト削減が実現できております。

Q4. レシチャレの今後の展開状況について教えて欲しい。

リテールパートナーの参加企業を増やすためにPoC(実証実験)を積極的に進める方針です。

新規参画をご検討いただく企業様に対しては、PoCを迅速に実施し、具体的な成果をデータで証明するアプローチをとっております。

特に生活接点の多いスーパーマーケット中心に取り組む方針であり、導入への心理的ハードルを下げ、本契約への移行を目指しております。

Q5. 株主優待が始まるが、配当については検討しているか。

配当については重要な検討事項であると認識しており、事業投資やM&Aとのバランスの中で検討してまいります。

なお、株主優待については、「クラシル」のサービスから始めましたが、今後は「レシチャレ」での活用も検討したいと考えています。

以上